

令和5年度第1回各務原市総合教育会議議事録

I 日 時 令和5年7月12日（水）午後4時00分～午後4時55分

II 場 所 産業文化センター7階第1大会議室

III 出席者

（構成員）

市 長 浅野 健司

教育長 加藤 壽志

教育委員 大友 克之、和智 陽子、林 ゆり、小島 聡太郎

（教育委員会事務局）

事務局長 横山 直樹、参与兼教育施設整備推進室長 牧田 洋之、総務課長 足立 勉、
学校施設課長 嶽 翁輔、学校教育課長 林 健司、中央図書館長 新居 美保、
青少年教育課長 三輪 史子、文化財課長 西村 勝広、スポーツ課長 河瀬 憲政、
少年自然の家所長 奥村 謙司、学校給食センター所長 寺田 明生

（市長部局）

産業活力部長 村瀬 誠、次長兼いきいき楽習課長 永井 昭徳、

企画政策課長 小林 広和

（書記）

教育委員会事務局総務課主幹 小川 大介、教育委員会事務局総務課主事 砂川 雄哉

IV 内 容

1 市長あいさつ

2 協議・調整事項

（1）令和5年度教育方針等について

（2）その他

V 協議・調整事項の結果

（1）令和5年度教育方針等について

市 長 それでは、議事に入ります。

本日は、第1回会議となりますので、今年度の教育方針や主要施策等について委員の皆様と意見交換できたらと思います。

それではまず、事務局から説明をお願いします。

教 育 長 （令和5年度学校教育について、資料により説明）

施設整備推進室長 （新特別支援学校整備事業について、資料により説明）

学校施設課長 （学校建替基本方針策定事業について、資料により説明）

学校教育課長 （夢・チャレンジ事業について、資料により説明）

市 長 説明が終わりました。只今の説明についてご質問等はございますか。

（特になし）

市 長 それでは、今事務局から説明のあったことや、説明はありませんでしたが資料に挙げられている事業を中心に意見交換をしていきたいと思っております。まずは、教育方針や資料にある個別事業について、委員の皆さんからご意見を頂

戴したいと思います。

大友委員 新特別支援学校整備事業について、教育長からもご説明ありましたが、広い意味での特別な支援が必要であるという考えをご理解いただき、大変うれしく思います。

兄が小児科を専門にしていまして、子どもの数が減っているのに、ADHDといった発達障がいや自閉症・情緒障がいが増えているのは、全国的なことのようですし、特にコロナ禍の間に増えているという報告もありますので、その子たちの学年が上がってくると、教育現場では大変になってくるだろうと思います。

少子化という、ついでダウンサイジングのことを考えてしまうのですが、教員数については、Student/Teacher比（ST比）に関して、なるべく教員を投入して、良い教育を付けてあげるということは重要であると考えています。

学校建替については、老朽化の問題ですが、学校のニーズというのも時代とともに変わっていくのかなと思いました。

各地区で学校が果たす役割として、災害時の支援等、インフラの役割も考えていく必要があると思いました。校区という考え方が、皆さんの中に染み付いているだろうと思いますので、これは、教育委員会の問題ではなく、市全体の問題として、区割り、建替・再整備の姿というのは、関連して捉えていかなければならないと感じています。

和智委員 教育長の話で、支援が必要な子たちは、特別支援学級等に通っている子だけではなく、広く支援が必要としている子の支援を充実するという点は非常に共感できるのですが、現状教員の確保が難しい中で、そこを手厚くしようとすると、おそらく、現場の負担が上がるのではないかと懸念があります。先日、教員の過労死のニュースもありましたので、教員の負担を上げすぎずに、子どもたちに対する支援を充実させることは、難しいこととは思いますが、お願いしたいと思います。教員の確保という部分で、教員の代わりが出来る場面では、ボランティア等貢献いただける人材を確保していく等どのように進めるか、具体的な方策が出てくると良いと思います。

教員の確保に関して、具体的な数値目標はありますか。

教育長 和智委員がおっしゃったのは、学校内のお話だと思いますが、各務原市では、外国人の日本語指導については、Futuro教室という市独自の事業がありますし、不登校についても、支援センターを設置しています。ららら学習室や特別支援アシスタントも同様です。このように県ができない隙間を市が埋めていくことを進めています。当然、県には教員の確保について、要望はしていきますが、市でできることについては、努力したいと思います。

林委員 先日、今後学校建替の際にプールはどうしていくかという議題も出たかと思っています。先日市長さんと一緒にプールの授業も拝見しまして、教育長ともお話しましたが、プールの授業では、教員も大変な思いをしてやっている中で、果たして人数はこれで良いのかと思いました。

新規事業の夢・チャレンジ事業ですが、とても良い事業であると思います。

私たちも同じですが、いつ・どこで・誰と会うかといったことはとても大切なことです。先生・市と一緒にあって、そういった色々なことにチャレンジしている方を見たり、話を聞いたりする機会を子どもたちに与えていただけることで、そこから自分がどうしていくかといった夢を持てることが、とても良いことだと思いました。

小島委員 本日、新特別支援学校の地鎮祭に出席しましたが、知的の方や肢体不自由の方の支援は益々充実するのかなと思います。学校が無事に完成し、勉強できるようになるのを楽しみにしています。最近、運営する幼稚園の方でも、目に見えない、潜在的に抱えている、障がいとまでは言えない子どもたちが非常に増えているように感じます。親も気づけない、他者との関わりの中で分かる事例も増えていますので、市の方でも特別支援教室等、力を入れられているところだと思いますが、益々特別な支援は必要になってくると感じています。

夢・チャレンジ事業については、私もとても良い事業だと思っています。新規事業とのことですが、夏休みの時期にかなり多くの子どもたちに参加していただけるとのことで、今後希望者が増えていき、例えば冬の時期に冬らしいコースを設定する等、更に拡大し、良い事業になっていくことが楽しみだと感じました。

市長 特別支援学校については、色々ご意見いただきましてありがとうございます。教育長のお話にもありましたように、大友委員からのアドバイスにより、特別な支援に対する認識が変えられたと思います。特別支援学校はもとより、不登校、さくらまえみや等といった施設の活用、経済的な負担の観点から、ららら学習室の実施や高校生の通学に係る支援を公共交通機関だけではなく、自転車で通っている子に対しても、自転車の購入補助を行っています。そうした皆さんの意見から、隙間をしっかりとサポートしていきたいと思っています。

夢・チャレンジ事業については、以前は各務野立志塾という形で行っていましたが、各学校の代表の子たちが、参加していただいていたのですが、どちらかというと、できる子・まじめな子が参加するという状況でして、昨年度から少しずつ変化させながら、今年度については、新規事業として、学校教育課には5コース準備いただきました。私と榎本さんは昨年度も行いましたが、その他にも若い子で頑張っている選手等に対し、自分の夢を叶えるために、どのような努力をしているのかといった話が聞けるかと思っています。また、地域の方々との交流をやっていくのも重要かと思っています。

学校の建替については、大友委員がおっしゃられるように、児童生徒数の変化、学校区の変化は出てくるかと思っています。市全体を見ても、市街化調整区域が多いため、なかなか家が建てられないこともあり、お子さんが一度出て行ってしまうと、戻ってくる率が低い地域等もある一方、まだ住宅開発されている地域もある状況です。こうしたことを踏まえると、教育長が力を入れて、中学校区でコミュニティスクールを実現していますが、中学校区単位でも越境した区割も検討の材料の一つになってくるのかなと思います。

また、学校が地区で果たす役割の変化が非常に大きいと思います。災害が発生した時、「指定されている場所よりこちらが近い」といった発言もありまして、地区割・学校区の変化はこれからしっかりと検討していく必要があると思います。

学校についても、学校訪問をしていただいています。あのような学校のスタイルなのか、他国で見られる学校のスタイルが良いのか、地域の方の意見も聞くことによって、だんだんと見えてくると思います。引き続き、お気づきの点がありましたら、ご指導いただきたいと思いますので、よろしく願います。

(2) その他

市長 学校訪問していただき、その場でもコメントいただきましたが、お褒めの言葉が多かったように思いますが、厳しめの意見も言っていただければと思いますが、いかがでしょうか。

大友委員 先生方も一生懸命やっていたと思いますし、校長先生も学校経営の目標をきちんと立て、取り組んでいるなという印象を持ちました。施設の老朽化は、目に見えて分かるところもありましたし、子どもたちも古いところより新しいところの方が良いとは思いますが、子どもの数が減っているのも、教室の暑苦しさはなくなったと感じました。見学した学校では、プールをやっていましたが、プールと民家が隣接しており、こんなに近くでやっているのかと驚きました。変な言い方をすると嫌だなと思いました。先ほどの話でもありましたが、プールの在り方は今後議論されるべきだと思いました。

林委員 プールの授業を見学しまして、気になった点は、教員2人では、難しいのではないかという点です。補助の先生がいないのかとお聞きしたところ、皆さん手一杯であるとのことでした。水泳教室を行っている民間事業者の専門的な方をもし指導者として派遣してもらうことができれば、子どもたちの水泳のレベルにも良いと思いますし、先生方が入らずに上から見ていただけるような形があっても良いのではないかと思います。多くの学校で、校長・教頭ともに、何かあった時、市教委に連絡すると、すぐに来ていただけるということをおっしゃっていて、とても印象に残りました。伸び伸びと楽しそうに授業を受けていると感じ、それが一番良かったと思いました。

小島委員 以前見学したときより、子どもたちがタブレットを使いこなしていると感じました。教員にもそれが浸透して、タブレットやモニターを使いながら、効果的な授業をされていると感じました。子どもたちが教えあう等、授業の中の工夫もされており、全体的に授業を受ける態度・姿勢が良い意味で大人しいと感じました。時期的に熱中症等で、体育館や外での活動が制限される中ですが、子どもたちは子どもたちなりに学校での生活を楽しんでいるという姿を見られ良かったと思います。

市長 全体的にお褒めの言葉をいただき、ありがとうございます。

教育長 さくらなか、さくらまえみやがどうなっているのかという点について、お話ししたいと思います。

6月登録者は、あすなろ11名、さくらなか5名、さくらまえみや30名、ココカラ4名となっており、昨年度に比べると、非常に多くなっており、逆に支援員が不足するような状況になっています。子どもたちは、ここからどうやって次に向かっていくかということが重要ですが、学校にほとんど行っていなかった子が来てくれるようになり、楽しんで生活しているという状況ですので、こういう場をつくってもらえたことが良かったと思います。F u t u r o 教室についても多言語化が非常に進んでおり、パキスタンやバングラデシュあたりから、かなり来ており、それに対応できない状況がありますが、支援の先生が努力してやってもらえている状態です。そのあたりについては、国際協会にお願いしながら、ボランティアの方を確保できないか考えていかなければならないと思います。私自身保守的な考えのところがあり、通学区域の話がありましたが、そうした話をきくと、自治会は大丈夫だろうかといったことを色々と考えてしまいますが、こういったことも自治会に投げかけて、自治会が考えてもらうというようなことをやっていかなければならないと思いました。考えてみれば、幼稚園では通学区域はないですし、瑞穂市では校区の弾力化を行っていますので、それに鑑みると学校の建替と同時に、色々変えることができると思っています。新特別支援学校ができますが、ソフト面でも改革、何か新たなアイデアを出して取り組むことが、変わっていく時期に大切なことだと感じました。

産業活力部長 教育長の話の中でありましたF u t u r o 教室の関係で、多言語化が進んでいるということについてお話します。国際協会の方としても、例えば、先月行われたホッケージュニアワールドカップでも、通訳のボランティアを募集したところ、数十名の方がエントリーしてくれました。そういった潜在的な業務ができる方がいますので、国際協会の担当課である観光交流課と情報交換しながら、特殊な言語となると、すぐに対応は難しいかもしれませんが、協力していきたいと思っています。夢・チャレンジ事業は非常に注目していた事業で、いよいよ始まるのだと聞いていました。実は、産業活力部で所管しています「ものづくり見学事業」が「夢・チャレンジ事業」と役割分担できるように教育委員会事務局と調整の場を設けました。それを踏まえて、素晴らしい事業をつくってくださったと思います。各学校を通じて、ものづくり見学事業のチラシを配布する時期になってきましたので、今後お互い情報共有しながら、良い事業を育てていきたいと思っていますので、引き続きよろしくをお願いします。

市長 それでは、他に意見も無いようですので、議事を終了したいと思います。事務局においては、本日の意見等を今後の施策の展開に十分に反映していただきたいと思います。

市長部局におきましても、教育委員会と連携し、教育行政を推進していきたいと考えておりますので、今後とも委員の皆様のご理解、ご協力をお願いします。では、進行を事務局に返します。

総務課長 本日は、長時間にわたりありがとうございました。次回の総合教育会議についてですが、10月18日を予定しております。

それでは、これもちまして、令和5年度第1回総合教育会議を終了いたします。本日はありがとうございました。